

令和6年度 高鍋町立高鍋東小学校 学校評価書（自己評価）4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・わるい 】

教育目標	高い志をもち、自らを律し、力強く生きる児童を育成する。
目指す学校像 目指す児童像 目指す教職員像	<input type="radio"/> 知性を磨く学校（力いっぱい） <input type="radio"/> 主体的に学び、協働し考え深める子ども（かしこく） <input type="radio"/> 自ら学び、子どもと共に高まる教職員 <input type="radio"/> 明るく楽しい学校（笑顔いっぱい） <input type="radio"/> 礼儀正しく思いやりのある子ども（やさしく） <input type="radio"/> 創意工夫して指導を充実する教職員 <input type="radio"/> 活気がある学校（元気いっぱい） <input type="radio"/> ねばり強く 元気な子ども（たくましく） <input type="radio"/> 積極的にコミュニケーションを図り、協働する教職員
本年度の重点 (教育的課題)	1 特別支援教育の視点を生かしたポジティブ行動支援の取組（特別支援教育） 2 I C Tを活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践（主題研究） 3 地域資源を積極的に活用した探究的な学びの実践（地域連携）

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価				学校運営協議会委員評価	
			指標別	総合	結果の考察・分析	改善策等		
高鍋町重点指導事項	【知】授業改善 家庭学習習慣の定着 【徳】基本的生活習慣の定着 新明倫の教えの推奨 【体】生活のリズムの確立 【信頼される学校づくり】学校運営協議会の充実 幼保・小中高連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 授業力向上を目指した研究授業や研修を通して授業改善に努める。 <input type="radio"/> 家庭と連携し、各学年に応じた家庭学習を習慣化させる。 <input type="radio"/> 学校教育活動全般を通して率先した「あいさつ」・「返事」・「靴並べ」・「整理整頓」を体得させる。 <input type="radio"/> 「新明倫の教え」を機会あるごとに唱和すると共に集会等において関連する講話等を行う。 <input type="radio"/> 早寝・早起き・朝ご飯について、学校だよりや学級通信等で啓発する。 <input type="radio"/> 学校運営協議会のリーダーシップ、実務者会議の機動性の発揮、地域コーディネーターと連携した取組を行う。 <input type="radio"/> 学力向上や防災訓練、各種行事等における幼保・小・中・高等学校との更なる連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 「わかる授業」をめざした教師の指導力の向上を図るために、研究授業を実施する。 (※ 1年3.0分～6年8.0分) <input type="radio"/> 発達段階に応じた家庭学習の習慣を確立する。 <input type="radio"/> 日常生活の土台となる「あいさつ」・「返事」・「靴並べ」・「整理整頓」の習慣化を図る。 <input type="radio"/> 学校・家庭・地域において「新明倫の教え」を推進し、80%以上の児童生徒が暗唱できる。 <input type="radio"/> 早寝・早起き・朝ご飯の実践者（児童生徒・保護者）数を90%以上にする。 <input type="radio"/> 学校を地域や社会に開き、「地域の力」を学校経営に生かし、70%以上の児童生徒・保護者が十分実感できている。 <input type="radio"/> 幼保・小・中・高との連携の在り方を模索し、連携した行事等を5回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 「わかる授業」をめざした教師の指導力の向上を図るために、研究授業を実施する。 <input type="radio"/> 発達段階に応じた家庭学習の習慣を確立する。 <input type="radio"/> 日常生活の土台となる「あいさつ」・「返事」・「靴並べ」・「整理整頓」の習慣化を図る。 <input type="radio"/> 学校・家庭・地域において「新明倫の教え」を推進し、80%以上の児童生徒が暗唱できる。 <input type="radio"/> 早寝・早起き・朝ご飯の実践者（児童生徒・保護者）数を90%以上にする。 <input type="radio"/> 学校を地域や社会に開き、「地域の力」を学校経営に生かし、70%以上の児童生徒・保護者が十分実感できている。 <input type="radio"/> 幼保・小・中・高との連携の在り方を模索し、連携した行事等を5回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 協働的な学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実践 ・研究授業や相互参観授業 <input type="radio"/> アンケートの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣定着に係る保護者への啓発 ・あいさつ、礼法、整理整頓を重点的・継続的に指導 <input type="radio"/> 早寝・早起き・朝ご飯 <ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ご飯やメディア利用についての学校保健委員会や通信による家庭への啓発 <input type="radio"/> 地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携による教育活動の推進と情報共有化 <input type="radio"/> 幼保小中高連携 <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会や合同行事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> ・新明倫の教えは町内4校の先生方が教育研究所において、明倫堂学規を子供たちにも分かる短い文にまとめたもので、さらなる活用が望まれます。 <input type="radio"/> ・地域と連携した門松作りは、素晴らしいと思います。 <input type="radio"/> ・登下校のあいさつは良くできています。 <input type="radio"/> ・全てに高評価は難しいと思います。地元の偉人だけは低学年から、しっかりと教えて将来全国に広まるのを期待します。 <input type="radio"/> ・参観日、地震避難訓練等に参加させてもらったが、学校と地区住民との絆が強くなればと思う。 <input type="radio"/> ・家庭学習の充実を図れる環境づくりとして、PTAとの連携を深めることで向上することを期待しています。 <input type="radio"/> ・あいさつは小学生の時からできるよう力を入れて頂けたらと思う。 <input type="radio"/> ・ゲームなどによる早寝ができるないのでしょうか、朝ご飯は100%欲しいです。
知育	学力向上推進「学び合い」	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 児童の学力向上＝教師の授業力向上 <input type="radio"/> 家庭学習や読書活動の推進と充実 <input type="radio"/> 全職員による特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 「ひなたの学び」を意識した授業の実践 <input type="radio"/> 個に応じた指導や習熟度別少人数指導で、たかなく・みやざき学力調査の結果が全国平均を上回る。 <input type="radio"/> 「学びの構え」（チャイム黙想、姿勢、返事、聞く発表）を身に着けさせるとともに、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。 <input type="radio"/> 家庭読書（親子で読書）を年2回実施 <input type="radio"/> 児童の困り感に寄り添った特別支援体制構築、校内研修の実施（外部機関との連携） <input type="radio"/> ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善 <input type="radio"/> 保護者の支援と関係機関との連携推進 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> B <input type="radio"/> A 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 「ひなたの学び」を意識した授業の実践については教職員の89%、分かる・できる授業については児童75%、保護者88%が肯定的に評価している。 <input type="radio"/> 教職員が連携して指導に当たり、国語では1・3・5年、算数では1・2・3・4・6年で全国平均（4年は県平均）を上回った。 <input type="radio"/> ICT支援員のサポート（約週1回）を受けて助かっている。 <input type="radio"/> 学びの構えのチャイム黙想はほとんどの学級で定着している。一方、姿勢や返事、聞く態度は学級で差が見られる。 <input type="radio"/> 家庭読書を実施し、貸出冊数年間（2/20現在）で72,827冊。「おすすめの本の紹介」や「読書ビンゴ」「読書目標の設定」等の読書推進の取組を行った。 <input type="radio"/> 読書への取組や指導について、児童68%、保護者74%、教職員68%が肯定的な評価をしている。 <input type="radio"/> スクールカウンセラー（年間21回）やSSW（週1回）、るびなす支援学校といった関係諸機関との連携を充実させることで、特別な配慮の必要な児童 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 東小スタンダードの改訂と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・「ひなたの学び」を意識した授業改善（一人一人が問い合わせ、学び合い、考え方を深める等） <input type="radio"/> 個人差対応 <ul style="list-style-type: none"> ・担任の教科交換授業や課題別指導 ・授業における習熟の時間の確保、キュビナの活用 <input type="radio"/> 立腰指導 <ul style="list-style-type: none"> ・各学級での日常指導と校内放送等による意識化 <input type="radio"/> 家庭読書 <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の重点的指導 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> ・特別支援教育における指導の手立ては、全ての子供に、有効で授業改善の視点として、大切だと思います。 <input type="radio"/> ・学習の個人差が目立ち、学習の進度がはやいので、習熟の遅い子は指導の徹底をお願いしたい。 <input type="radio"/> ・学校での読書の時間はとれないものでしょうか。 <input type="radio"/> ・読書への取組をもっと活用すべきではないだろうか。 <input type="radio"/> ・I C T活用はOKだが、書物による活用が重要と思う。 <input type="radio"/> ・キュビナの活用ができる 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> B

				<p>や保護者の実態に応じた支援が図られた。</p> <p>○ 町教育支援センター「なでしこルーム」に 8 名(2年男児 1 名、3 年男児 1 名、4 年男児 2 名、5 年女児 1 名、6 年男児 2 名・女児 1 名)、「まちなかコラボ」には 5 名(3 年男児 1 名、6 年男児 4 名)の児童が通級している。</p>	特別支援教育 ・個に応じた支援の在り方に 関わる研修	環境が素晴らしいと思いま す。 ・不登校児童の問題は、大きすぎて心が痛みます。各 自のスピードがあるのでし ょうか。	
徳育	心の教育推進 「ふれあい」 明倫四徳の意識化と実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ不登校の未然防止と早期解決 ○ 自己決定の場を与える ○ 自己存在感を与える ○ 共感的な人間関係を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己実現への支援～生徒指導の 3 機能発揮と悩みアンケートや教育活動を毎月実施 ・学級活動、全校、学年集会活動、学校行事などで礼法指導や存在感・達成感を抱かせる場の設定と関わり ・朝のさわやかな「いさつ」とボランティア活動などを奉仕・体験活動の推進で思いやりの心と人のために働く態度を養う。 ・新明倫の教えを毎週一度は唱和させる。 	A B B B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 困ったときの相談やサポートについては、児童 74 %、保護者 80 %が肯定的に評価している。 ○ 生徒指導の 3 機能を生かした教育活動を目指している。また、悩みアンケート「あのねカード」や教育相談により、いじめ不登校の未然防止等に務めた。 ○ いじめ不登校の問題が発生し、組織的な対応が必要と判断された場合はハートフル委員会を開催することができた。 ○ 児童の自主性を育てる行事や日常指導についての肯定的な評価は児童 72 %、保護者 84 %であった。 ○ 思いやの心と人のために働く態度を養うことについては、個人差があり、更なる指導や、奉仕・体験活動の推進が必要である。 ○ 2/25、地域見守りボランティアの皆様への感謝集会を行った。更に、挨拶やボランティアへの関心を高めたい。 	<p>基本的な生活習慣・行動様式の定着 (「いさつ」と会釈「あゆみ」歩行、無言の場「ほそいあきら」の徹底) ・「よい子のきまり」の活用 共感的人間関係の育成 ・安心して自分を表現できる</p> <p>学級集団づくり ・特別活動の充実 ・奉仕活動の推進 ・PTA や地域ボランティアとの連携</p>	<p>・町内の 4 校は、伝統的に年に一度道徳の授業に石井十次を取り上げてきましたが、継続を期待しています。</p> <p>・地域ボランティアとの交流が、盛んで自分達で考え行動するようになってきている。</p> <p>・地震発生後に、東小児童姉弟 2 名が近くの事業所に避難してきました。少し感動しました。</p>
体育	健康づくり推進 「高め合い」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎体力の向上 ○ 生命の尊重と健康教育の推進 ○ 心と体を豊かにする食育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果の活用と実践、立腰指導、体育の時間における体力向上の指導の充実 ・危険予知トレーニング実践で事故の未然防止に努める。 ・家庭で運営したアウトメディアの推進 ・お弁当の日の継続、朝食の重要性指導 	A B B A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上については、児童の肯定的評価は 88 %、保護者 83 %、教職員 89 %であった。 ○ 全校集会や昼休み時間での体育委員会による「ひなたのチカラ」に振り付けたダンスの紹介や練習を行った。 ○ 今年度体育派遣事業では、各学年、水泳、タグラグビー、マット運動、等の学習で活用することができた。 ○ 11/6 に「子どもの望ましい生活習慣と睡眠」をテーマに町小・中合同学校保健委員会を行った。 ○ 事故の未然防止のために、委員会活動での安全点検に取り組んだ。 ○ 健康づくりの啓発として、保健だよりや食育だよりを毎月欠かさず発行している。 ○ ノーメディアデイを年 2 回実施し、啓発資料を配付してアウトメディアの推進を図った。 ○ 食に関する意識や指導について、児童は 83 %、保護者は 77 %、教職員は 83 %が肯定的な評価をしている。 ○ お弁当の日の取組は定着している。 	<p>自ら体力向上を意識する児童の育成 ・自分の体に関心をもち、自らの体力を意識し、お互いに高め合う運動への取組(体育派遣事業) ・体力向上プランに基づく体力向上 ・外遊びの奨励 ・体育の時間での主運動の時間の確保 ・危険予知の研修等の実施 ・学校保健委員会等を通したアウトメディアの更なる推進</p>	<p>・木の床の傷みが気になりました。</p> <p>・運動することにより、健康と長生きの秘訣になり今以上に体力向上の指導をお願いしたい。</p> <p>・体育や外遊びの運動は皆大好きです。好きなところから伸ばせると、他にも良い影響もあると思う。</p> <p>・集団登校に参加する児童が、少ない地区がある車での登校が目立つ。</p> <p>・アウトメディアの推進は、さらに必要と感じています。</p>

【次年度の方向性についての校長所見】

高鍋町の教育基本方針に基づき、「心豊かな人が育つまちづくり」を教育理念とし、「明倫」の精神と石井十次先生の人間愛を学び、地域の特色を生かした教育活動を展開し、ふるさと高鍋ならではの人材育成に努める。

学力向上推進（学び合い）では、「ひなたの学び」を意識した授業改善によって、子ども達の学びに向かう力を育んでいくことを重点課題とし、読書指導や家庭学習を充実させながら、児童一人一人の学力の向上に努める。

心の教育推進（ふれあい）では、基本的な生活習慣（あいさつ等）を定着させるとともに、「四徳のこころみがき」を基盤とした生活指導をさらに充実させ、いじめ・不登校の未然防止や児童の思いやりのある心の育成に努める。

健康づくり推進(高め合い)では、体育科の授業や日常生活(生活リズムや外遊び等)を通して、児童同士が互いに高め合う組み、一人一人の体力の向上と健康の保持増進に努める。運動に取り組み、一人一人の体力の向上と健康の保持増進に努める。

児童や教職員のウェルビーイングを目指し、チーム担任制や教科担任制への取組を試行的に実施し、工夫・改善を図りながら、一人一人がやりがいをもって組織的に取り組める教育環境を整えることで、教育目標の具現化に迫る。